

▼ムルプレタ錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】 ルストロンボパグ Lusutrombopag 【分類】 血小板産生促進剤 [トロンボポエチン受容体作動薬]

【単位】 ▼3mg/錠

【常用量】 3mg/日, 7日間

【用法】 1日1回■観血的手技の施行予定日の8~13日前を目安に開始

【透析患者への投与方法】 常用量 (1)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 常用量 (1)

血小板数の増加度と腎機能は負に関連していた (Takeuchi H, et al: J Nippon Med Sch 2021 PMID: 32238734)

【特徴】 待機的な観血的手技を予定している慢性肝疾患患者における血小板減少症の改善に適用される。

【主な副作用・毒性】 血栓症, 発疹, 白血球減少, FDP 増加, 肝機能検査値異常, めまい, 発熱, 関節痛など

【安全性に関する情報】 既存の骨髄異形成症候群等の血液悪性腫瘍を進行させる可能性がある (1)

【吸収】 食事の影響を受けない (1)

【F】 資料なし (1) 50% [ラット], 75% [イヌ] (1)

【tmax】 4hr (1)

【代謝】 肝代謝を受け主にβ酸化カルボン酸となり, 他にβ酸化カルボン酸タウリン抱合体, 脱ヘキシル体及びグルクロン酸抱合体が同定 (1) CYP3A4 が一部関与 (1) CYP4A11 を含む CYP4 系でオメガ酸化 (Kawachi T, et al: Xenobiotica 2021 PMID: 33125290)

【排泄】 尿中回収率 1% [po, 14日まで] (1) P-gp 及びBCRP の基質 (1) 83%が糞便中に回収 (Kawachi T, et al: Xenobiotica 2021 PMID: 33125290)

【CL/F】 0.7L/hr (1)

【t1/2】 20~30hr (1)

【蛋白結合率】 99%以上 (1)

【Vd】 Vd/F=17.6L/man (1)

【MW】 591.55

【透析性】 除去されないとと思われる (5) 資料なし (1)

【相互作用】 P-gp, BCRP, OATP1B1, OATP1B3 を阻害する (1) 薬物相互作用ポテンシャルは低い (Katsube T, et al: Eur J Clin Pharmacol 2020 PMID: 32666123)

【主な臨床報告】 発売までのまとめ (Kim ES: Drugs 76: 155-8, 2016 PMID: 26666417)

【更新日】 20240815

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。